

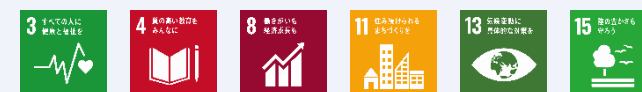
4次総 5大重点政策の概要

オクシズの森林文化を育てるまちの推進

目指す姿

オクシズが都心と支え合い、住み続けられる地域になるとともに、自然環境と森林を活かした賑わいが生まれ、持続的な経済活動が営まれるまちづくり

関連するSDGsゴール



取組の方向性

- ・本市の市域の約80%を占める中山間地域は、豊富な自然と、地域の伝統文化や農林業といった人々の営みが共存し、「オクシズ」の愛称で親しまれています。都心の豊かな暮らしにも恩恵をもたらすこの地域の魅力と強みを活かし、安心して住み続けられるオクシズを形成していくことが必要です。
- ・そこで、オクシズにおける買い物、医療、教育等の生活機能の維持や、地域コミュニティを維持するための移住促進等による新たな担い手の確保などにより、生活利便性の向上に取り組みます。
- ・さらに、農地や森林の適正な利用と保全を意識した経済活動のための環境づくりや、新たな観光交流拠点の整備と観光客を呼び込むための効果的な情報発信を通じた地域の賑わいづくりなどにより、雇用と仕事の確保に取り組みます。

ロジックモデル（案）

取組方針

(1)
オクシズの生活利便性を向上させ、安心して生活を送ることができる

【指標案】

- ・オクシズ地域の定住人口
- ・移住世帯件数

(2)
オクシズに雇用と仕事が確保されている

【指標案】

- ・森林整備面積
- ・野生鳥獣被害防除面積
- ・オクシズ地域の新規事業支援数
- ・温泉入場者数

狙い

不便なく生活するための機能が確保され、移住先としても選ばれている

住民の生活に必要なインフラが整備されている

オクシズの自然環境が保全・活用されている

観光交流客でにぎわい、活気がある

事業の考え方

- ・生活機能維持に必要な支援（移動・買い物）
- ・移住促進による地域活力の向上

- ・安心して暮らせるインフラ整備
- ・教育医療など生活に必要な施設整備

- ・オクシズの森林・農地の適正管理の推進
- ・担い手の育成
- ・自然環境の活用を促進

- ・オクシズの観光施設の活用
- ・市営温泉の魅力向上
- ・オクシズに関する情報発信

主な事業

- ・暮らし続けることができるオクシズ構築事業
- ・静岡型MaaS実証事業
- ・地域おこし協力隊配置事業
- ・中山間地移住促進事業
- ・野生鳥獣被害対策事業

- ・三峰落合線・南アルプス公園線改良事業
- ・両河内スマートIC（仮称）整備事業
- ・オクシズ地域学校再編事業
- ・大河内診療所移転・新築事業

- ・南アルプス市民参加による生き物調査事業、森づくりツアー実施支援事業
- ・南アルプスユネスコエコパーク高山植物由来酵母活用事業
- ・オクシズ漆の里構想事業
- ・静岡地域材活用促進事業
- ・オクシズ地域づくり事業協同組合設立支援事業

- ・両河内地区自然の家整備事業
- ・清水森林公園整備事業
- ・国民保養温泉地プロモーション事業
- ・南アルプスユネスコエコパーク賑わい創出事業
- ・南アルプス周辺登山道整備事業
- ・梅ヶ島新田温泉改修事業
- ・お茶ツーリズム推進事業

※赤枠内は実施計画に掲載（取組方針・主な事業）

4次総5大重点政策 指標の設定について

オクシズの森林文化を育てるまちの推進

取組方針	指標名	設定の背景(なぜその指標を設定したか)	計測方法 計測の頻度	現状値 目標値	目標値の設定理由
オクシズ地域の生活 利便性向上	【指標1】 オクシズの旧安倍6村 及び両河内地区の定住 人口	オクシズが住み続けられる地域であるためには、オクシズに住む人を維持し、コミュニティが維持されていくことが重要である。オクシズの生活利便性を向上させることで、定住人口の減少幅の縮小を目指していくため、特に人口減少が激しい、旧安倍6ヶ村と両河内地区の人口を指標とする。	住民基本台帳 (毎年)	(現状値)6,418人(R4.9) R8 :5,900人 R12:5,400人	国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」によるR12の旧安倍6村と両河内の人口予測(4,874人)から、10%上昇を目指す。R8は、R12年までの減少幅の中間値を目標とする。
	【指標2】 オクシズへの 移住世帯件数	オクシズが住み続けられる地域であるためには、オクシズに住む人を維持し、コミュニティが維持されていくことが重要であるオクシズへの移住を促進することで、定住人口の減少幅の縮小を目指す。	空き家情報バンク経由の移住世帯数 (毎年)	(現状値)12件(R3) R8 :15件 R12:15件	地域の受け入れ体制も鑑み、年間15世帯がコンスタントにオクシズに移住することを目指す。
自然を活 かした雇 用と仕事 の確保	【指標3】 森林整備面積	オクシズの自然を活用していくためには、間伐等を行い森林が適切に整備・管理されることが必要である。森林整備面積を増加させることで、活用を促進していく。	国、県、市、民間が実施した整備面積の合計 (毎年)	(現状値)545ha(R3) R8 :700ha R12:700ha	要間伐森林を削減し、林業の持続可能性を高めるために必要な整備面積を算定。計画的・継続的に整備を実施していくという考えのもと、700ha/年の整備を継続していくことを目標にした。 なお、森林整備は10年から15年間隔で繰り返し行うことにより残存木を良質なものに上げると同時に、森林の公益的機能を維持増進する役割があり、林業従事者が減少する中でこれを維持するために最低限行う面積を指標としてあげていることから、R8とR12の目標値を同じ面積とする。
	【指標4】 野生鳥獣被害 防除面積	オクシズ地域において、持続可能な農業を営むため、野生鳥獣被害対策が課題となっている。野生鳥獣被害対策には、農地に対する防除が最も有効であるため、「オクシズにおける農地の防除面積」を指標とし、オクシズにおける農業経営の維持を目指す。	個別・団体型 野生鳥獣被害防除事業補助金(中山間地振興課)	— R8 : 20ha(R5~8) R12 : 40ha(R5~12)	比較的規模の大きい農地の防除は進んできたが、オクシズ特有の急傾斜地や小規模な農地の防除を進めていくため、計画期間累計で40haの防除の推進を目標とした。
	【指標5】 オクシズにおける 新規事業支援数	オクシズの雇用増加につなげるため、オクシズにおける地域団体や企業等が行う新規事業の増加を目指す。	オクシズ元気ビジネス支援事業の事業数 (毎年)	(現状値)2件(R3) R8 :5件 R12:5件	オクシズにおける地域団体や企業等の新規事業を支援することで、雇用につなげていくために、年間5件の新規事業支援を目標とする。
	【指標6】 市営温泉入場者数	オクシズの観光交流拠点の魅力を向上させるため、市営温泉のリニューアルを実施していく。それにより、入場者数を増やし、オクシズへの観光交流客を増加させ、賑わいを作っていく。	各温泉施設の入場者数 (毎年)	(現状値)90,335人(R3) R8 :年間15万人 R12:年間20万人	R6までにコロナ前の水準(12万人程度)に戻し、その後温泉施設のリニューアル等により魅力向上を図り、入場者数を増加させる。